

**既設コンクリート構造物の予防保全を目的とした診断・調査・補修に関する研究委員会**  
**第 1 回全体委員会 議事録(案)**

日 時：2018 年 6 月 29 日（木）13:30～15:30

場 所：JCI 本部会議室

出席者：竹田委員長、十河顧問、江良幹事長、山口幹事、濱崎幹事、田中幹事、野島委員、  
遠藤委員、宮内委員、飯塚委員、花房委員、都築委員、山本委員、位田委員、審良委員、  
堤委員、湯地委員、戸口事務局

欠席者：井上委員、上田委員、皆川委員

配布資料：

議事次第

No.1 委員名簿

No.2 研究委員会 2018 年度研究課題 応募用紙

No.3 JCI 研究委員会資料 ー2018 年度 新規専門委員会ー

No.4 第 1 回幹事会 議事録（案）

No.5 研究委員会（108 回）議事録（案）

No.6 スケジュール案

No.7 研究委員会 報告会・シンポジウム等開催ガイドライン

No.8 平成 30 年度予算

No.9 JCI 研究専門委員会の委員会 HP について

No.10 予防保全を目的としたコンクリート構造物の補修材料および補修工法に関する  
研究会（FS） 報告書

No.11 平成 30 年度の良好な学会運営に向けた暫定的運用について

No.12 管理橋梁の現状（国土交通省 関東地方整備局）

議事：

1. 委員長挨拶

竹田委員長より挨拶がなされた。

2. 委員構成

- ・昨年度の FS の委員 18 名、顧問 1 名に加え、本年度より、堤氏（東電設計）に参加要請。
- ・ホームページ担当は昨年度に引続き湯地氏に決定。

### 3. 趣旨説明

- ・FS 報告書では新設構造物を含めていたが、本年度より既存コンクリート構造物に限定し、委員会名称 JCI-TC182A「既存コンクリート構造物の予防保全を目的とした調査・診断・補修に関する研究委員会」とした。なお、本年度より FS から A に変更された。
- ・本研究委員会では、主として、外観上の変状が顕在化していない「潜伏期」、「進展期」の劣化過程にある構造物の維持管理を対象として、予防保全に関する調査、診断、補修技術の体系化を行い、予防保全の手順を示す指標として、提案することを目的とする。
- ・成果品は研究委員会報告書（100 頁前後）＋「手順書（案）」とする。内容については、予防保全が事後保全に比べて有利となる、事例研究、ケーススタディを行い、LCC も含めて検討する。なお、新設構造物の適用は報告書から除外する。また、予防保全的観点に立った、意識調査、実態調査、アンケートなどを地域限定で実施することも検討する。
- ・土木学会 標準示方書【維持管理編】の改訂を行っている。枠組みは変更があるが、中身はあまり変わらない予定。維持管理限界の設定の重要性は示されているが、具体的な内容は示されていないため、本委員会での活動がその指標となれば良い。
- ・土木学会では、構造物において維持管理限界を設定し、そこに至らせないことを予防保全の考え方としている。
- ・建築学会では JASS5 の改訂作業を実施している。本年度の発刊を予定しており、その中では、予防保全や事後保全の用語の取扱いはなくなり、保全で統一される。

### 4. 実施内容審議

- ・管理者や施工者についてアンケート調査を行うことが有効である。JCI 参加者へ依頼すると回答率が良いと考えられるため、濱崎先生より過去に実施したアンケート願ひ用紙をもらい、JCI で配布する。
- ・各 WG 間の情報は共有することを基本とし、各 WG 間のメールも全員に配信する。参加可能な場合は、他 WG にも積極的に参加したほうがよい。
- ・旧 WG 1 の一覧表データおよび旧 WG 3 の詳細版データを江良氏に送り全員に配信する。
- ・NEXCO では予防保全という言葉はあるが、大量のインフラがあるため事後保全に追われ、予防保全は手につかない現状である。
- ・北海道での予防保全対策は含浸材が大半を占めている。平成 18 年度に含浸材適用の手引きが作成されて依頼、多く使用されている。
- ・電力関係では劣化パターンを分析することで対策優先度の決定や、劣化しやすい地域や条件で区分して点検の重要度を決定している。
- ・設計・予防・事後の体系を捉えたうえで、予防保全に注力するのが良いのではないかな。
- ・使用中や稼働中の構造物に予防保全を適用したくても、稼働を止められないなどの実状があるため、予防保全を適用できない条件を洗い出すことが必要である。
- ・

#### 4. WG 構成とメンバー（案）

以下の3つのWGを設置する。

- WG1（調査・診断・補修技術の体系化）

予防保全に適用可能な調査、診断、補修技術に関する情報を収集、整理し、体系化する適用範囲や精度などについて技術的評価を行う。

- WG2（調査・診断・補修技術の適用性評価）

予防保全に適用可能な調査、診断、補修技術に関する性能評価方法、補修効果と持続性の確認方法について技術的評価を行う。

- WG3（手順書作成）

WG1およびWG2の検討結果を踏まえ、既設コンクリート構造物の予防保全の普及のための手順書を提案する。

- 各WGの主査および構成メンバーの案は以下のとおり。

| WG         | 主査 | メンバー                  |
|------------|----|-----------------------|
| WG1（体系化）   | 濱崎 | 江良、山本、花房、飯塚           |
| WG2（適用性評価） | 山口 | 井上、審良、皆川、宮内、都築        |
| WG3（手順書作成） | 田中 | 野島、上田、遠藤、位田、堤、湯地、（江良） |

・2年目のWG3には幹事団全員参加

#### 5. 活動スケジュール（案）

- 本委員会の活動期間は2年間、活動終了後の2020年秋をめどにシンポジウムを開催する。

- 2018年（予算：100万円確定）

4/19：第1回幹事会、6/29：第1回全体委員会・第1回WG、7月～12月：各WG 1～2回、12月：幹事会、1/31：研究委員会（活動報告）

- 2019年（予算100～150万円）

5月：全体委員会、各WG 2～3回、9月：報告会会場予約、12月：全体委員会 or 幹事会、1/31：研究委員会（活動報告）、3月：報告書原稿案完成

- 2020年度（予算20～30万円）

4月：活動成果概要提出（年次論文集掲載用）、5月：委員会報告会 会告原稿入稿、6月：委員会報告会 会告会誌掲載、7月：最終原稿提出、9月：委員会報告会（シンポジウム）

- 予算が低く抑えられているため、メール審議など低費用で行う工夫をして推進する。

- WG1、WG2についてはまとめてWGを実施した方がよい。

#### 6. 平成30年度の学会運用について

- 赤字予算を解消すべく、平成30年度の申請予算を大幅に減額した。10月頃に修正報告をして、全委員会で調整する。

- 諸規則・諸規定の暫定的な実施

日当、昼食、懇親会費の廃止、宿泊料支給の該当項目の変更 など

## 7. その他

### ・修正事項

資料 No.3 2. 活動計画 WG 1 技術⇒補修技術

資料 No.4 2. 委員構成 標準示様書⇒標準示方書、同編集委員⇒同改訂委員

以上

【記録：湯地 輝】